

市立阿寒病院の民営化 計画を撤回させました

村上加ずしげ 議員の質問で勝負アリ



3月6日の市議会本会議。共産党の村上議員の質問で、市立阿寒病院の問題が一変しました。法的制約と市の重大な不手際が明らかになり、流れは180度変わり、一気に民営化撤回の流れが広がりました。

市長も「そうした場合には、民営化できない」と断念の可能性に言及、その後の庁内検討を経て、3月15日の市議会民生福祉常任委員会の席上で、正式に民営化断念が表明されました。

また、市政を混乱させた責任を取って、市長と担当副市長は減給1/10を一ヶ月、阿寒町行政センター長は引責辞任することになりました。

連日、道新・釧新で報道された市のずさんさと民営化断念の可能性

全く信じがたい話

市が民営化の理由とした「介護療養病床の維持」に関して、24年度以降、国は新たな開設を一切認めない方針で、阿寒病院を引き継ぐ民間病院が、介護療養病床の開設を申請しても認められない可能性が大きい。

こうした問題があることを既に市も知っており、「どうなるか？」北海道と国に問い合わせをしているが、今もって返事が来ていない。

こうした民営化の前提に関わることで、市長には報告されておらず、民営化の条件が整わないうちに、市長は民営化を決断。住民説明会などで「民営化する」と説明したり、民営化の公募条件を詰めるなど、民営化の取り組みを進めてきた。

こうした結果をつくった原動力はな
んといっても、民営化をやめさせたい
とがんばった住民の力です。
民営化反対署名は四千筆を超え、住
民説明会でも民営化の問題点を次々追
及。民営化反対の「会」もつくられ、
センター長と交渉や市議会への陳情。
こうした取り組みに圧倒された行政
が、民営化に固執・急ぎすぎて、自ら
大失態を招く結果となったのです。



村上加ずしげ 通信

2012年3月18日

発行 日本共産党市議団

私も住民のみなさんと一緒に頑張ってきました。民営化を撤回できて、こんなにうれしいことはありません。

このチラシは、政務調査費で作成しました。

断念に追い込んだ一番の力は住民パワー